認定特定非営利活動法人

# ぶどうのいえだより

編集・発行人：堀内　昭　〒113-0032　東京都文京区弥生 1-3-12
TEL 03-3818-3362　FAX 03-3818-3392

No.65　2013 年　夏

## 絵本と友達とボランティア

荒川　こずゑ

ぶどうのいえの二階には食堂に隣接してプレイルームがある。そこにはテレビやおもちゃ、そしてたくさんの本が並んでいる。ピコピコとゲームをしていることの多いお子さんが時に夢中になって本を読んでいる姿を見ることができると、とても嬉しい。静かな午後、ページをめくる音は生と死が同居する場で強い命を感じる。

私は乳児院に絵本を読みに行くボランティアをしている。０歳から３歳までの幼い子どもたちだが、幼いながらも前のめりになって聞いてくれることがある。０歳は０歳なりに、膝の上で本をかじる。１歳になると本をめくる。気に入った絵を指さす。小さいうちに本が友達となることをわかって欲しくて、よだれでベタベタになっても、歯型がくっきりとついても、私は絵本を抱えて通う。

最近、とある子ども病院で活動なさっている読み聞かせボランティアグループの一日を見学、活動に参加させていただく機会を得た。病棟での読み聞かせのあと、本を貸し出す。今読んでくれた本はどれ？と聞かれ、手渡すと本当に嬉しそうにベッドに持って行き、さっそく開いた。（やったー！）付き添いのお母様が小さな声で読み出すのを聞きつつ部屋を出たが、その場にいたボランティアの笑顔！笑顔!! 初めて会ったボランティア同士が喜びで、あっという間に一つになれるこの瞬間があるからやめられない。

この日は、手も足も言葉も呼吸すら自分ではしづらい子ども達の枕元でも読んだ。体格の良い男の子におにぎりの絵本・・・。一生食べることはできないのかもしれないけれども、いつか食べたいね、との願いをこめて読んだ。一瞬、絵本のおにぎりを見つめてくれた彼は、きっと私と同じ気持ちでいてくれたと信じている。

絵本の力はすごいと思う。白血病で髪の毛が抜け、いつも帽子をかぶっている子どもが主人公の本があるが、言葉では語りづらいことも絵本なら表現できることもあるし、絵は読み手聞き手の心の持ちようによって様々な事を語る。絵本のおにぎりも聞き手の彼に「おいしいよ」「ホカホカだよ」以外の何かを語ってくれたはずである。

海外には、“助け人自身が助けである”ということわざがあるらしい。ボランティアは力まないでも始められる。そして帰りにはたくさんのお土産を心の中につめ込める。

私は絵本の力を借りて読み聞かせボランティアを続け、多くの子ども達から助けられている。

私を受け入れて下さっている施設、そして何よりも多くの病気・苦しみをかかえる子ども達に、活動を通してたくさんのありがとうを伝えたい。

（ぶどうのいえ運営委員）

# 追　悼

## 金井　務　殿　楽園〈パラダイス〉への出張を命ずる

### ― 金井務氏の死を悼みつつ ―

前ぶどうのいえ理事長
日本聖公会 東京教区主教　大畑喜道

ぶどうのいえが現在あるのは金井務さんの大きな働きがあってこそだと感謝の思いでいっぱいです。神様によってこの世に生を受け、支えられて人生の旅路を終えられた金井務さんは80有余年の人生を、様々な苦悩や悲しみを乗り越えてこられました。青年時代の江田島での海兵時代から敗戦、価値観の大転換を迫られ、東大での生活、そして何よりも同志会という東京大学の寮での交わりを通してキリスト教信仰を育み、自分の人生の方向性を発見し、企業人として、またクリスチャンとして、必死にその生きる意味を問い続けながら、謙遜に生き抜いた方であったことを今更ながら感動しています。

小職は約30年前、一番初めの教会の牧師として東京聖テモテ教会に赴任しました。30歳そこそこで生意気盛り、そんな牧師を背後からしっかりと支えてくださいました。聖公会という教会が大切にしていることの一つは、小さい者への愛のまなざしを持つことです。それをみんなが実感できるように、目に見える形で共有できるようにと、クリスマスの時に救い主キリストの降誕劇を大人が子供たちにして見せたことがあります。3人の博士をどうしようか、その時に日立の社長だった金井務さんにお願いをしました。教会のなかで体格もよく立派に見えるだろうというだけの理由でしたが、本当に楽しんで劇に参加してくださいました。博士として自分の持てる最上のものを小さく貧しくされているところへ持っていく働き。今思うと金井さんの人生の縮図がそこにあったようにも思い出されます。ぶどうのいえを東京聖テモテ教会の働きとして立ち上げた時に後援会長になっていただきました。しかしいつも名前はあまり出さないでほしいと言いながら、本当に支えてくださいました。忙しい長期の海外出張の帰りがけにお立ち寄りになったりもしていつも気にかけてくださっていました。奥様の玲子夫人とともに陰からいつも支えてくださったことを感謝しています。

主イエスが共に死んでくださるがゆえに、死を乗り越える対話があり、力があり、慰めがあります。私たちは死の先がどうなるのかは分かりません。しかしわたしたちには確信があります。謙遜に生き抜いた信仰者を、神はしっかりと支え大きな懐に抱いてくださることを。

金井さんの最後のお顔に対面させていただいて感じたことがあります。「今日私は神に出会い、楽園に連れて行ってもらえる。安心しなさい。私は世界中を仕事で駆け回った。長期の出張もした。今回は神からの命令として天国への長期出張命令が出ました。喜んで出かけます。」私たちも神様から長期出張の命令を受ける時が必ずやっています。その時に、金井さんと笑顔で再会したいと思います。神が私たちに、愛に生き抜く信仰と力を、再会の希望を与えてくださいますように。主に召された金井務氏の霊魂の平安をお祈りいたします。

## 元後援会長　金井務氏の死を悼む

**理事長　堀内　昭**

3 月 19 日にご逝去されたとの訃報を翌日に伺い、驚きました。17 日の総会時に、体調が良くなられたので明日から散歩に出掛けるという奥様からのお話を伺ったばかりでした。

「聖テモテ愛の家」（現「ぶどうのいえ」の前身）を立ち上げ、運営をしていくために、竣工前の、1995 年 9 月に「聖テモテ愛の家後援会」を設立した際に、会長を引受けて下さったのが、昨日のように思い出されます。さっそく翌年から日立製作所をはじめ日立グループ各企業に呼びかけて下さいました。宗教法人の枠で外部から寄付を集めることは、ハードルが高いので、1 日も早く法人格を取得するようにと、貴重なご意見を戴きました。そのため、早速準備に取り掛り 1999 年 11 月 27 日に特定非営利活動法人（NPO 法人）の認可の申請。翌年 4 月に NPO 法人として認可を受けることが出来ました。さらに「認定」の申請に対してもご心配下さり、日立製作所の専門家の方にノウハウを聞いて下さいました。そのお蔭で、32 番目という早い時期に認定を受けることが出来ました。

金井さんが毎年、日立各社に「ぶどうのいえ」への継続的なご支援を呼びかけて下さったので、18 年に渡って運営が順調に行われてきました。いつも感謝の気持ちで一杯です。

「ぶどうのいえだより」の No.7（1997 年夏号）に『落穂拾い』と題し、会社の製品の品質の保ち方、問題が起こったときの知恵の出し方を社内では落穂拾いと名づけて活動していると説明し、若い人に「問題があることを知る」「それに参加する」ことの大切さを知ってほしいと述べられました。「若い人たちが自分の大事な時間を実際に使ってボランティア活動に参加することは素晴らしいことであり、且つ皆さんの知識が真の『知』となり、これからの皆さんを成長させるのだと思います。」と。さらに No.17（2000 年春号）では、「ぶどうのいえが NPO 法人となり、ようやく NPO のようなボランティアという個人活動が社会のために必要であることを日本の国が認識したわけです。（中略）日本の社会の一部であるぶどうのいえを一層育てていただきたいと思います。」とボランティアのあり方を示して下さいました。

企業のトップとして、社会的責任の大きさと、世の中の弱者に目を向ける心を知る大きな方でした。

10 周年や 15 周年記念号でも「ぶどうのいえ」に対する今後の方針についてご意見を戴きました。来る 2015 年に迎える 20 周年や将来の「ぶどうのいえ」の計画等もご相談しようと思っていた矢先、天国へ召されました。

天国から「ぶどうのいえ」の今後をお見守り下さい。

## お働きに感謝します

**副理事長　横倉 正義**

金井　務様は、「ぶどうのいえ」後援会会長として、当時日立製作所社長の要職に在りながら、1996 年 4 月からご尽力いただきました。「ぶどうのいえ」は、発足間もないころでしたが、難病のこどもの看護に当たるご家族に安く、くつろげる滞在施設を提供するという主旨でしたので、利用者の負担を抑え構造的に発生する赤字は、寄付金で賄う必要がありました。金井様のご協力により、関係する会社の方々から多額の募金をいただき、事業としての基盤を確立することができました。目的や狙いはいかに貴重なものであっても、財政的に安定しない事業は永続することができません。その意味で金井様のお働きは「ぶどうのいえ」にとって大変ありがたいものとして心から感謝する次第です。

金井様とお目にかかる機会は多くありませんでしたが、物静かな話し方や穏やかな表情は印象に残っています。また、何度かお礼にお伺いした本社の担当者の方々を通して、社内で尊敬を受けておられることを感じることができました。「ぶどうのいえ」の副理事長を務めていただいておられる奥様と、日本聖公会東京教区での働きで、お嬢様の黒沢様とは数多くお話しする機会に恵まれ、素晴らしいご家庭の雰囲気を感じさせられました。尋常帰妙、多逢聖因という言葉があります。良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していき、いい人と交わっていればよい結果に恵まれる、という意味ですが、金井様をはじめ多くの方々のお支えで、「ぶどうのいえ」が世のため人にため役に立つ働きができることを願っています。

「ぶどうのいえ」の働きは，1984 年 12 月の聖テモテ教会女子寮の将来を考える「会館委員会」の活動が始まりとのことですが、この働きを緒として全国に 100 を超す施設がつくられることになりました。家族の病気で苦しむ方々が少しでも安らぐことができるように、残された我々ができることを続けていくことが求められていると感じます。金井様が天国から「ぶどうのいえ」の活動を見守っていただき、私たちに知恵と勇気を与えてくださるように祈っております。

**ファミリ-ハウス・フォ-ラム**

## 病気の子どもと家族のトータルケアを考える

**～「その人らしく生きる」ということ～**

荒川こずゑ

7 月 6 日(土)、当日の準備段階から参加して、様々なハウスから集まっているのにもかかわらず手際よく進められる作業にファミリーハウスの底力を感じつつ、開始時間を迎えた。

フォーラムの目的は、“トータルケアの一環として「その人らしく その家族らしく」生きる為の支援を考えているファミリーハウスのトータルケアへの役割について考えること”で、はじめにイギリス・ドイツの視察報告がなされた。

充実した子どもホスピスの概要、ホスピスとファミリーハウスの共通点等を聞きながら、ぶどうのいえでも早速できることがあると感じた。

基調講演はアルフォンス・デーケン先生が「その人らしく生きる」をテーマに約 2 時間話された。上智大学で哲学の講義をなさっていらしたドイツ生まれの先生が、妹さんを家族で看取ったときは 5 歳。妹さんは両親、兄弟一人一人にありがとうと伝えて亡くなったそうだ。宗教、環境の差はあるが、1930 年代に家庭でホスピスケアがなされていたことは驚きとともに羨ましくも思えた。日本なりに受け入れられる点を考えていきたいと感じた。

深く頷かされたのは、いかなる時にもユーモアが大切だという話だった。ユーモアとは（～にもかかわらず）笑うこと、ほほえみ、笑顔は無言のコミュニケーションであると伺い、ぶどうのいえのスタッフの笑顔は正しかったのだと実感した。

最近、ぶどうのいえを 15 年以上に渡って利用された方のお子さまが亡くなった。最後のほうは涙、涙だったが、一日ひとつでも良かったと思えることを探して笑うこと、例えば、「駅のホームに着いたら電車がすぐに来た」、「エレベーターにスムーズに乗れた」でも OK！と言いながら病院に向かっていらした姿が、デーケン先生のお話を伺いながら目に浮かんだ。

フォーラムはパネルディスカッション　―ファミリーハウスの役割― と続き、200 人以上の来場者がほとんど途中退場することなく、幕を閉じた。

充実した一日を過ごした満足感とともに、ぶどうのいえで活かせることを探したい、笑顔の大切さをあらためて心にきざみ実践していきたいとの思いを強くした。

### ≪パネルディスカッション≫

西田恵子

休憩後、医師・看護師・ソーシャルワーカー等専門家の 4 人のパネリストを中心にファミリーハウスの果たしてきた役割と今後のハウスのあり方について考えた。

病気の時こそ「普通の生活」をと「我が家」の様な温もりを持ったハウスは、不安な家族を支え、子どもの治療への意欲を引き出すと言われ、トータルケアの一端を担ってきた。また「安心・安全・安価・ホスピタリティ」というのがハウスの理念である。この言葉をスタッフは心がけている。

利用者が安心して治療に専念できる宿泊施設であること、衛生面も含めて安全に宿泊できる環境、長期で利用される方にも負担がかからないよう安価で孤独になりがちな闘病生活を守り支える、これらが理念と役割である。

今後のハウスのあり方として、急性期病院が運営するハウスと運営・連携システム等の実

践例が紹介され、現状の課題と今後への期待が述べられた。

　また、入院期間の短縮化、拠点病院化に伴うハウスのニーズの増加や小児医療の進歩に伴う情況の変化などいろいろな例をあげて説明頂いた。

例えば、

・人工呼吸を装着する患児と親の退院前の訓練の場とする
・早産や低出生体重児の増加により、出産後から NICU、GCU へ面会に通うさいの利用
・成人する患児の通院、治療のための利用
・終末期小児がん患児の看取りの場

小児医療の現状とニーズの多様化から、ハウスの未来を考える時期が来たように思う。

　最後に質疑応答が活発に行われ、スタッフの皆さんの意識の高さを感じた。

病気の子どもと家族の気持ちに寄り添いながら、今後も活動を続けていきたいと思う。

## ★ありがとうございました

| | |
|---|---|
| ★ 齋藤温子様 | 絵本　タオル |
| ★ オリンピア様 | 本　油絵セット |
| ★ 鈴木光男様 | 洗面セット　コーヒー　紅茶 |
| ★ アンジー　遠藤江美子様 | 枕　カバン　財布　靴下等 |
| ★ 大西六生様 | 額絵 |
| ★ 神谷まり様 | 手づくりキルトコースター |
| ★ 桑名真砂江様 | 文具類 |
| ★ 中村友子様 | 絵はがき |
| ★ 岩崎明美様 | 成田山セット |
| ★ 土井基子様 | 菓子　古切手 |
| ★ 小谷佳子様 | サラシ一反　ハンカチ |
| ★ 羽深幸夫様 | プラム１箱　海苔　固形石鹸 |
| ★ 青野光子様 | 花瓶　ハンドバッグ　マフラー |
| ★ 岩崎裕己様 | フェイスタオル |
| ★ 小野悦子様 | 便箋　封筒 |
| ★ 石野恵子様 | ミニタオル |
| ★ 安達寛様 | 麦茶　海苔　洗剤 |
| ★ 阿部恭子様 | さらし　文房具　印刷用紙 |
| ★ 熊澤美知子様 | 菓子　塩 |

(2013/4/1～7/31)

## ★ありがとうございました

会費・ご寄付の方々　　(順不同・敬称略)

藤井一功　東弘彦　堀楚乃子　瀬戸口哲子　及川慶子　古橋二葉　堀内紀子　大森聖アグネス教会　聖パウロ教会　目白聖公会　聖バルナバ教会　東京諸聖徒教会　月島聖公会　聖ルカ国際病院聖ルカ礼拝堂　練馬ガブリエル教会　池袋聖公会　八王子復活教会　聖パトリック教会　葛飾茨十字教会　三光教会　聖マーガレット教会　小金井聖公会　森田利光　SAMRAN 黄留根　松原茂子　島治伸　上松恵子　東松山聖ルカ教会　大西健之・六生　佐藤康祐　館泰子　館國　松崎健三・加寿子　赤坂康子　宮本とも子　川岸達之　井上弓子　荒牧清美　小金井聖公会食事会　山王丸豊　堀楚乃子　細谷ゆき子　清水孝郎　目白聖公会婦人会　永田文明　姉川博子　矢代捷　匿名　立教池袋中学校・高等学校　榊まゆみ　金井玲子　宮地和世　大西健之・六生　聖愛教会　堀楚乃子　樋口扶美子　匿名　近澤淑子　瀬戸口哲子　堀内昭　渋澤一郎　酒巻弘　石渡康弘　匿名　大畑喜道　大畑敦子　テモテ教会ケーキ班　大久保えま子　萩谷治子　三浦優子　杉崎たか子　杉山三郎　匿名　渡辺誠　南部律司　山下幸子　丸田研一　村上康弘・光子

(2013/4/1～7/31)

## ご報告

### 管理人さん　5 月 6 日 お引越し

2005 年から夜間管理人として勤務していた黄留根さんが大学院卒業と就職でお別れ。
奥さんの倪家佳さん 息子のユウユウ君もお元気で！

### サムランさん　4 月 23 日訪問

タイのサムラン一家は、2000 年にぶどうのいえを利用された海外からの滞在者さん。
当時 2 歳だった患者さんが 15 歳のお誕生日に来日。私、こんなに元気になった、とニッコリ。スタッフ一同、至福のひとときでした。

### 聖愛教会を訪ねて　6 月 16 日

聖公会東京教区の各教会は、いつもぶどうのいえを支援して下さる。その中の聖愛教会から、ぶどうのいえを紹介する機会をいただき「17 年の歩み」のスライドを映し日常業務などの現状をお話ししました。午後のひととき、20 名を越える方々が参加して下さり、熱心な質問も受けました。

ぶどうのいえのような施設の存在を知って、そして、それを誰かに伝えてもらうことが一番必要なことという私達の思いを受け止めていただいたと感じました。

聖愛教会の皆さま、ありがとうございました。

## 今後の予定

### 教区フェスティバル

日　時：9 月 23 日(祝)　ぶどうのいえ出店　手芸の店　12：30～14：30
場　所：香蘭女学校
品川区旗の台 6-22-21　最寄駅　東急大井町線･池上線　旗の台駅下車 5 分

### 秋の大バザー

日　時：10 月 20 日（日）　11：30～14：30
場　所：東京聖テモテ教会ホール　ぶどうのいえ 1 階・2 階
バザーを開催いたします。
皆さまお誘い合わせの上、お出掛け下さい。献品もよろしくお願いいたします。
なお、中古衣料は今年から中止になりました。

### 第 14 回 JHHH ネットワーク会議

全国滞在者施設のネットワーク会議
日にち：11 月 2 日（土）～3（日）
場　所：沖縄県立南部医療センター･こども医療センター
共　催：NPO 法人 こども医療支援わらびの会
認定 NPO 法人 ファミリーハウス

### 尾松純子語りの世界

日にち：2013 年 12 月 14 日(土)
場　所：東京聖テモテ教会礼拝堂
詳細は、ぶどうのいえイベント事務局 鵜飼良機までお問い合わせ下さい。
電話：03-3260-2734

### 編集後記

猛暑と大雨の夏、いかがお過ごしですか？
ぶどうのいえは夏休みに治療を受ける子どもが多く、満室の日があります。
スタッフ一同気を引き締めて応待しています。　（編集：西田・堀内紀）


## 認定 NPO 法人　ぶどうのいえ

ホームページ　http://www.budounoie.jp/
E-mail　info@budounoie.jp
郵便振替口座名　特定非営利活動法人ぶどうのいえ
郵便振替口座番号　00120-2-540161